

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 16 年 10 月 21 日 (2004.10.21)

【公表番号】特表 2000-501608 (P2000-501608A)

【公表日】平成 12 年 2 月 15 日 (2000.2.15)

【出願番号】特願 平 9-521593

【国際特許分類第 7 版】

A 0 1 K 5/00

A 0 1 K 29/00

A 2 3 K 1/16

A 2 3 K 1/18

【F I】

A 0 1 K 5/00 Z

A 0 1 K 29/00

A 2 3 K 1/16 3 0 4 Z

A 2 3 K 1/18 A

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 10 月 23 日 (2003.10.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

同時に出願審査請求書あり

手続補正書

平成15年10月23日



特許庁長官 殿

1. 事件の表示

特願平9-521593号

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 アメリカ合衆国 バージニア州 22101
マククリーン エルム ストリート 6885

名 称 マーズ インコーポレイテッド

3. 代 理 人

7318

識別番号 ~~100073184~~

住 所 神奈川県横浜市港北区新横浜3-18-3
新横浜KSビル 7階 柳田国際特許事務所

氏 名 柳田 征史

4. 補正命令の日付 な し



方 式 査 査



5. 補正の対象

出願翻訳文の「請求の範囲」の欄

6. 補正の内容

- (1) 請求の範囲を別紙のように補正する。

請 求 の 範 囲

1. 家畜用飼料を供給および／または貯蔵する器具において、該器具が、互いに分離可能に接続された少なくとも二つの部材(1)および(2)からなり、少なくとも一つの部材が凹部(8)を有し、それによって、前記部材が組み立てられた状態で、内部に位置する空洞であって、家畜用飼料を収容するように機能する空洞を形成し、前記互いに分離可能に接続された部材が、飼料を与える家畜による、噛みつく動作および／または噛み砕く動作および／または手足および／またはその他の補助による前記器具の操作の影響下でゆるみ、これによって、該器具の内部に見つけられる前記家畜用飼料に到達でき、前記部材の組立てにより該器具に割れ目(3)が形成され、該割れ目(3)が、該器具を開き、前記内部に収容された前記家畜用飼料に到達できるようにするための標的点として機能し、該器具の長手方向に延在していることを特徴とする器具。
2. 前記部材が、少なくとも一つの成形プラグ接続により互いに接続されていることを特徴とする請求の範囲 1 記載の器具。
3. 前記器具が、細長い形状を有し、該器具の少なくとも一つの位置にくびれを備え、該器具がある表面に横たえられたときに、前記飼料を供給すべき家畜が顎で該器具を拾い上げられるようにしたことを特徴とする請求の範囲 1 または 2 記載の器具。
4. 前記器具が骨の形状にあることを特徴とする請求の範囲 3 記載の器具。
5. 前記器具が、該器具を開けるための標的点として機能して、前記内部に収容された家畜用飼料に到達できるようにする表面凹部を備えていることを特徴とする請求の範囲 1 から 4 いずれか 1 つに記載の器具。
6. 前記割れ目(3)がその長さに沿って異なる幅を有することを特徴とする請求の範囲 5 記載の器具。
7. 前記部材を組み立てることにより前記器具の内部に形成された空洞が、前記家畜用飼料を収容するのに必要な空間よりも大きく、内部に収容される家畜用飼料が、それ自体と該中空の内部に対して移動できることを特徴とする請求の範囲 1 から 6 いずれか 1 つに記載の器具。

8. 前記空洞が、食用の生体高分子または合成材料により密封されていることを特徴とする請求の範囲7記載の器具。
9. 前記空洞の一部が、食用の生体高分子または合成材料により密封されていることを特徴とする請求の範囲7記載の器具。
10. 前記空洞の密封材料が、飼料を与える家畜の唾液中に含まれる酵素活性の影響下で溶解されることを特徴とする請求の範囲8または9記載の器具。
11. 前記器具の少なくとも一部が食用材料で作成されていることを特徴とする請求の範囲1から10いずれか1つに記載の器具。
12. 前記器具の全ての部材が食用材料で作成されていることを特徴とする請求の範囲1から11いずれか1つに記載の器具。
13. 前記器具の少なくとも一部に、香料および／または調味料が備えられていることを特徴とする請求の範囲1から12いずれか1つに記載の器具。
14. 前記調味料および／または香料が、飼料を与える家畜の唾液中に含まれる酵素活性の影響下のみで放出されることを特徴とする請求の範囲13記載の器具。
15. 前記器具が、飼料を与える家畜にとって著しい触覚刺激を示す手段を備えていることを特徴とする請求の範囲1から14いずれか1つに記載の器具。
16. 前記手段が、空間的構造物、繊維要素および表面の荒い要素からなる群より選択されることを特徴とする請求の範囲15記載の器具。
17. 前記飼料を与える家畜にとっての滋養物を摂取することに関連する行動様式の顕著なきっかけを示すデザイン特徴を備えることを特徴とする請求の範囲1から16いずれか1つに記載の器具。
18. 前記デザイン特徴が、空間的要素、色パターン、色強度、色および／またはそれらの対応する灰色からなる群より選択されることを特徴とする請求の範囲17記載の器具。
19. 前記器具が構成される少なくとも二つの部材を組み立てた後に、前記飼料を与える家畜による、噛みつく動作および／または噛み砕く動作および／または手足および／またはその他の補助による該器具の操作の影響の有無にかかわらず、該飼料を与える家畜の唾液中に含まれる酵素活性の作用下で溶解するコーティングを備えていることを特徴とする請求の範囲1から18いずれか1つに記載

載の器具。

20. 前記コーティングが、前記器具が構成される部材の間の接合区域に延在し、該コーティングが溶解した後のみに該器具の空洞の内部に含まれる前記家畜用飼料を放出することを特徴とする請求の範囲19記載の器具。
21. 前記コーティングが、前記器具が構成される部材の間の接合区域に延在し、前記飼料を与える家畜の噛みつく動作および／または噛み砕く動作および／または手足および／またはその他の補助による該器具の操作の影響下で該コーティングが溶解した後のみに該器具の空洞の内部に含まれる前記家畜用飼料を放出することを特徴とする請求の範囲20記載の器具。
22. 前記香料および／または調味料が前記コーティング内に含まれていることを特徴とする請求の範囲19から21いずれか1つに記載の器具。
23. 前記調味料および／または香料が、飼料を与える家畜の唾液内に含まれる酵素活性の影響下のみで放出されることを特徴とする請求の範囲22記載の器具。
24. 家畜用飼料を貯蔵および／または供給する目的に、請求の範囲1から23いずれか1つに記載の家畜用飼料を貯蔵および／または供給する器具を使用する方法。